

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 積石塚の一大古墳群 史跡石清尾山古墳群を訪ねる

講師 波多野 篤（高松市文化財専門員）

日時 令和7年9月28日(日)

共催

高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

目次

1	はじめに	2
2	石清尾山二号墳	5
3	猫塚古墳	6
4	姫塚古墳	8
5	石船塚古墳	9
6	鏡塚古墳	12
7	北大塚古墳	12
8	石清尾山古墳群の変遷	14
9	おわりに	18

1 はじめに

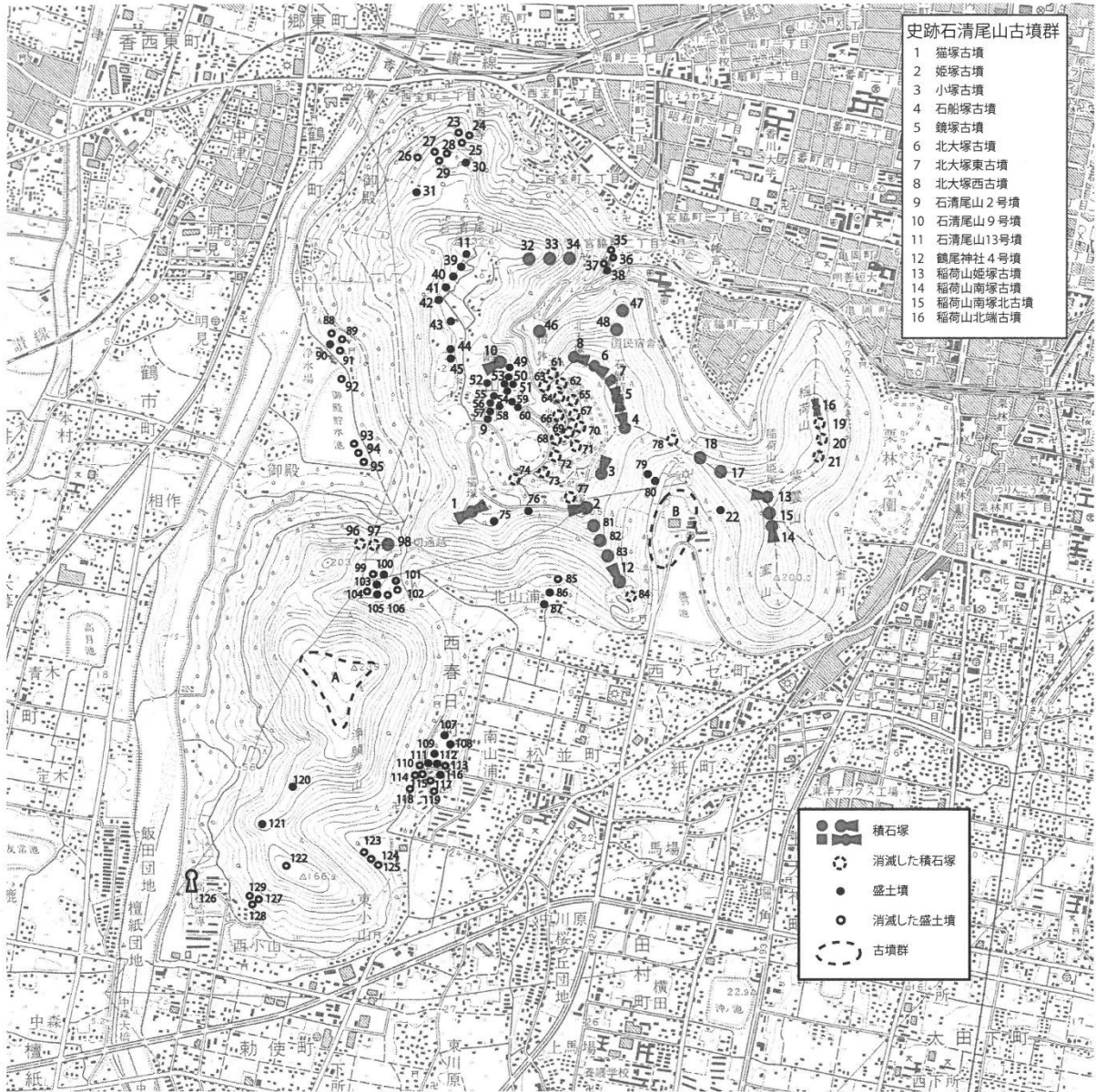
高松市域で著名な古墳群として知られるのが、石清尾古墳群です。この古墳群は、高松市街地からも近い、稲荷山、峰山、浄願寺山と呼ばれる三つの山塊に分布する、約二百基の古墳からなる一大古墳群です(図一)。古墳時代を前・中・後期の三つの時期に分けた場合、この古墳群では前期と後期に多数の古墳が築かれました。特に注目すべきは、前期に築かれたリーダークラスの人物を埋葬したと考えられる古墳であり、「積石塚」、「双方中円墳」という他地域の古墳ではあまり見られないキーワードを有することです。

積石塚とは 前期に石清尾山塊に築造されたのが「積石塚」という種類の古墳です。積石塚は、前期に四国島北東部や瀬戸内海沿岸など、そして後期には長野県など、日本列島の一部の地域で築かれた石積み墳墓のことを指します。古墳と言えば土を盛り上げて造られた「盛土墳」をイメージされると思いますが、積石塚は墳丘内部から石を積み上げて造られていることが特徴です。

特異な形の古墳 石清尾山古墳群では、中央に円形の墳丘、その両側に方形の墳丘を配置する双方中円墳が三基

築されました。上から見ると袋に包まれたキャンディーのような形で、二つある方形の墳丘がほぼ同じ大きさ、形であることが特徴です(図二)。古墳時代、日本列島の大部分の地域では前方後円墳を頂点とする形・大きさによる階層があつたと考えられていますが、石清尾山古墳群では前方後円墳が築造される一方で、それよりも大きい双方中円墳が築かれているのがもう一つの特徴です。このことは、他の地域で見られる古墳の形による階層性を石清尾山古墳群ではそのまま当てはめることができないということを示します。単に珍しい形の古墳があるというだけではなく、その背後に、地域間の力関係を比べる場合の大きなヒントが隠されていると言えるのです。

それでは、次に、本日見学する古墳のルート順に、古墳を解説していきます。本来は、古墳が築造された順に説明するのが分かりやすいのですが、古墳の立地の都合で、案内する順に紹介することをご容赦ください。



- 1 猫塚古墳 2 姫塚古墳 3 小塚古墳 4 石船塚古墳 5 鏡塚古墳 6 北大塚古墳 7 北大塚東古墳 8 北大塚西古墳
 9 石清尾山2号墳 10 石清尾山9号墳 11 石清尾山13号墳 12 鶴尾神社4号墳 13 稻荷山姫塚古墳 14 稻荷山南塚古墳
 15 稻荷山南塚北古墳 16 稻荷山北端古墳 17 稻荷山2号墳 18 稻荷山3号墳 19 稻荷山北端2号墳 20 稻荷山北端3号墳
 21 稻荷山北端4号墳 22 稻荷山5号墳 23 西方寺4号墳 24 西方寺6号墳 25 西方寺5号墳 26 木里神社2号墳 27 木里神社3号墳
 28 木里神社5号墳 29 木里神社4号墳 30 木里神社6号墳 31 木里神社1号墳 32 石清尾山14号墳 33 石清尾山15号墳
 34 石清尾山16号墳 35 峰山墓地内4号墳 36 峰山墓地内3号墳 37 峰山墓地内2号墳 38 峰山墓地内1号墳 39 石清尾山17号墳
 40 石清尾山18号墳 41 石清尾山12号墳 42 石清尾山11号墳 43 石清尾山19号墳 44 石清尾山20号墳 45 石清尾山10号墳
 46 石清尾山23号墳 47 北大塚北方2号墳 48 北大塚北方1号墳 49 摺鉢谷西斜面5号墳 50 石清尾山7号墳 51 石清尾山8号墳
 52 摺鉢谷西斜面4号墳 53 石清尾山21号墳 54 石清尾山6号墳 55 摺鉢谷西斜面3号墳 56 摺鉢谷西斜面1号墳 57 石清尾山3号墳
 58 摺鉢谷西斜面2号墳 59 石清尾山5号墳 60 石清尾山4号墳 61 摺鉢谷東斜面1号墳 62 摺鉢谷東斜面2号墳
 63 摺鉢谷東斜面3号墳 64 摺鉢谷東斜面5号墳 65 摺鉢谷東斜面4号墳 66 摺鉢谷東斜面7号墳 67 摺鉢谷東斜面6号墳
 68 摺鉢谷東斜面10号墳 69 摺鉢谷東斜面9号墳 70 摺鉢谷東斜面8号墳 71 摺鉢谷東斜面11号墳 72 摺鉢谷東斜面12号墳
 73 摺鉢谷東斜面13号墳 74 摺鉢谷東斜面15号墳 75 石清尾山22号墳 76 石清尾山1号墳 77 摺鉢谷東斜面14号墳
 78 石船塚東方古墳 79 奥ノ池4号墳 80 奥ノ池5号墳 81 鶴尾神社1号墳 82 鶴尾神社2号墳 83 鶴尾神社3号墳
 84 鶴尾神社5号墳 85 北山浦3号墳 86 北山浦1号墳 87 北山浦2号墳 88 御殿神社2号墳 89 御殿神社3号墳 90 御殿神社1号墳
 91 御殿神社4号墳 92 御殿貯水池4号墳 93 御殿貯水池1号墳 94 御殿貯水池2号墳 95 御殿貯水池3号墳 96 野山10号墳
 97 野山11号墳 98 野山3号墳 99 野山9号墳 100 野山1号墳 101 野山5号墳 102 野山6号墳 103 野山2号墳 104 野山8号墳
 105 野山4号墳 106 野山7号墳 107 南山浦12号墳 108 南山浦13号墳 109 南山浦11号墳 110 南山浦6号墳 111 南山浦9号墳
 112 南山浦10号墳 113 南山浦8号墳 114 南山浦4号墳 115 南山浦5号墳 116 南山浦7号墳 117 南山浦3号墳 118 南山浦2号墳
 119 南山浦1号墳 120 浄願寺山56号墳 121 浄願寺山57号墳 122 小山山頂古墳 123 片山池1号墳 124 片山池2号墳
 125 片山池3号墳 126 がめ塚古墳 127 がめ塚2号墳 128 がめ塚3号墳 129 がめ塚4号墳
 A 浄願寺山古墳群 B 奥の池古墳群

図1 石清尾山古墳群 分布図 (高松市教育委員会 2018 から引用)

2 石清尾山二号墳

最初に紹介するのは、積石塚ではなく盛土墳です。石清尾山二号墳は、後期に築かれた盛土墳で、国の史跡に指定されています。両袖式の横穴式石室で、かつて内部は牛小屋として利用されていたため、一部が後世に改変されています。過去の調査で、石室内から須恵器・土師器のほかに、金環とガラス玉などが出土しています。なお、石清尾山二号墳から二十五メートルほどの場所には石清尾山二号墳があります。この古墳は、史跡に指定されていませんが、奥壁幅や玄室の長さ・高さは石清尾山二号墳とほぼ同じであり、その類似性が注目さ



図2 双方中円墳 イメージ図（稲荷山北端古墳）（高松市教育委員会 2018 から引用）

れます。石清尾山塊には、このような盛土墳が点在しています。今後、調査等によって、歴史的価値を明らかにしていく対象と言えます。

3 猫塚古墳

全長約九十六メートルの双方中円墳で、古墳群中で最大規模の積石塚です(図三)。峰山の西側に立地しており、中円部からは本津川下流域を臨むことができます。明治期に大盗掘を受け、中円部にあった複数の埋葬施設の多くは破壊されてしまいました。同墳は、高さ約五・五メートルと立体感のある中円部が象徴

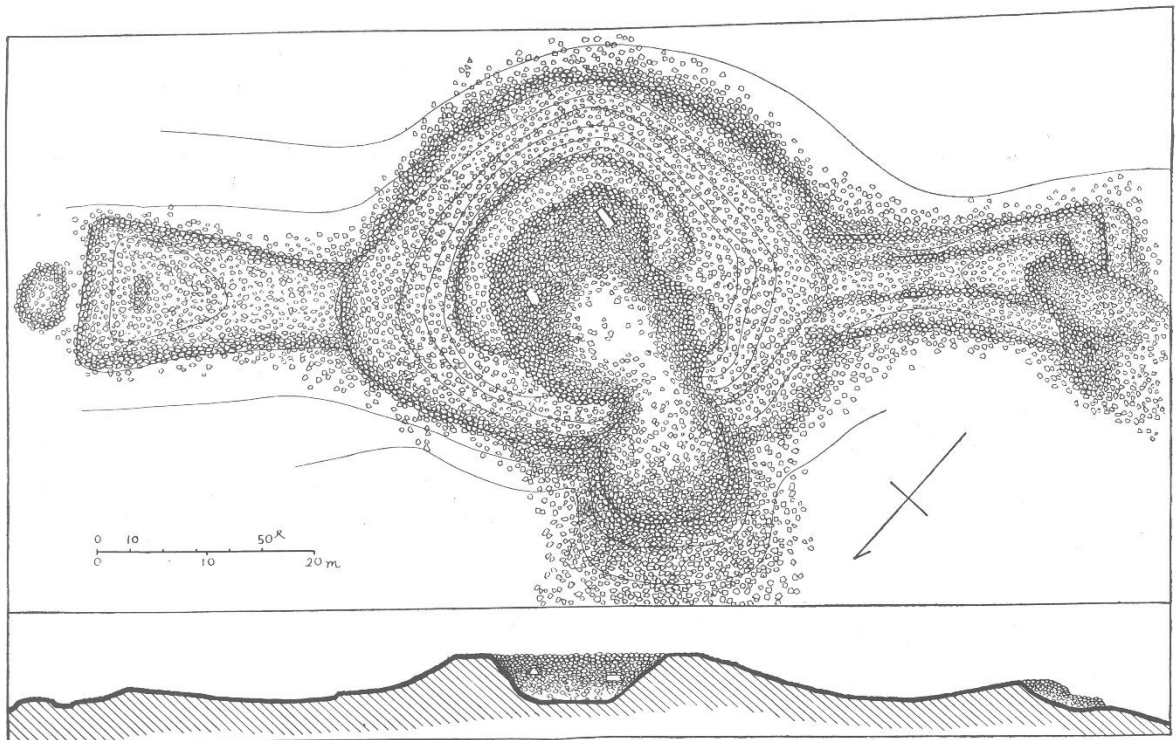


図3 猫塚古墳 実測図 (京都大学 1933 から引用)

的であり、それにとりつく方形部も、最も高い先端部で約二・四メートルの長さがあり、立体感が際立っています。埋葬施設は、現在、確実に残っていると云えるのが、中円部北側付近に位置する竪穴式石室一基です。ただし、この竪穴式石室は保存目的で昭和期に埋め戻したため、現在、その姿を目にすることはできません。元々どのような埋葬施設があったかを推測する資料として、昭和初期に行われた京都帝国大学の調査成果（以下、「京大報告」と呼称）が参考になります（図四）。報告によれば、中円部には高さの違いのある埋葬施設が、いずれも東西方向に長軸を配して九基復元されています。中央には最大規模の埋葬施設があり、ここから主要な副葬品が出土したと想定されています。同墳から出土した遺物

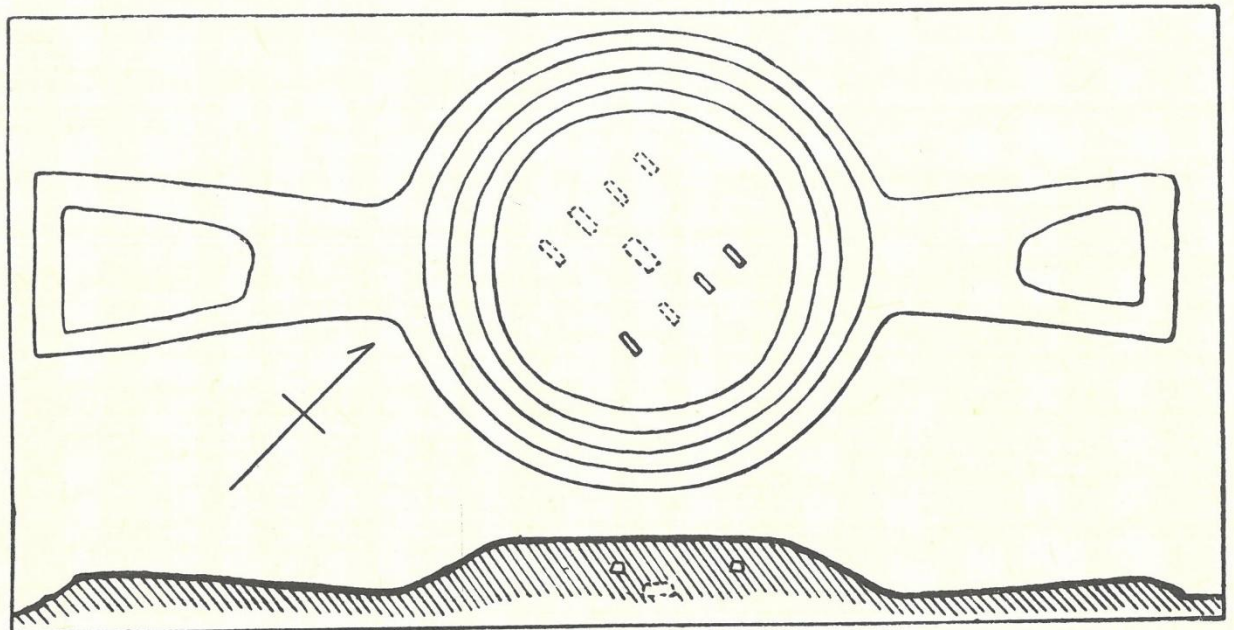


図4 猫塚古墳 埋葬施設復元図（京都帝国大学 1933 から引用）

は、鏡五面、石釧一点、筒形銅器三点、小銅剣十七点、銅鏃八点、鉄鏃四点、鉄剣四点、鉄刀一点、鉄鑿一点、鉄鉈一点、鉄斧一点、土師器壺一点です。これらの遺物は同時期に製作されたものではなく、また仿製三角縁神獸鏡や筒形銅器など、前期後半に帰属する資料も含まれることから、すべてが同墳の副葬品かは十分な検討を要します。

4 姫塚古墳

全長は約四十三メートルの前方後円墳です(図五)。古墳群のなかで最も後円部の残りが良く、後円部で三段分、前

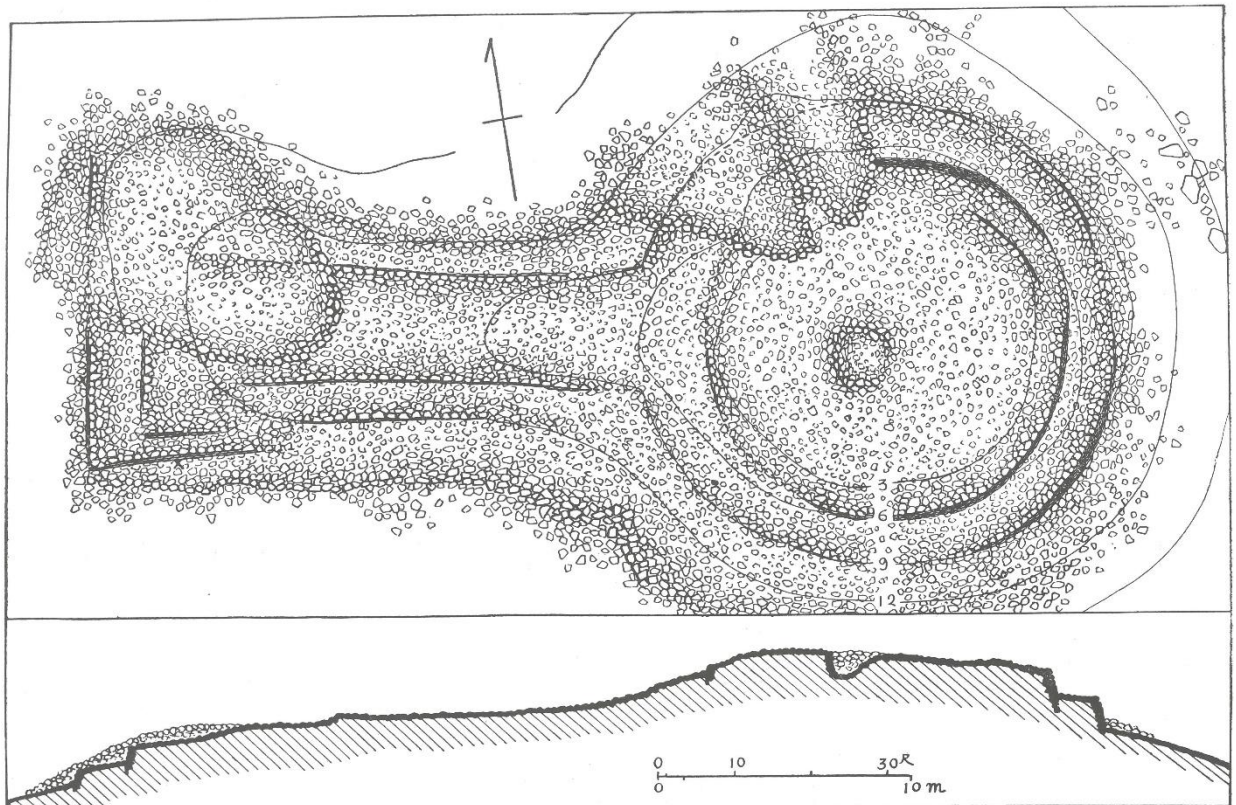


図5 姫塚古墳 実測図(京都帝国大学1933から引用)

方部で二段分の積石段を観察できます。このうち、後円部は下から二段目の残りが良く、連続して積石段を観察できます。残りの良い箇所で、高さが約一メートル残っており、垂直な段であることが良く分かります。積石段はほぼ同じ高さに造られているようなので、後円部は水平に墳丘を築いていることが推測できます。埋葬施設は現在のところ、その痕跡を観察できませんが、京大報告では、後円部の墳頂部中央に大きな盗掘孔が存在したとされています。遺物は、過去に円筒埴輪と壺形埴輪が出土したとされています。円筒埴輪は、定型化した円筒埴輪で、このことから古墳群中でも新しい時期に築造された積石塚であることが分かります。

5 石船塚古墳

全長約五十七メートルの前方後円墳です(図六)。全体的に立体感があり、前方部が前端部に向けて外側を開く形状となっています。後円部のほぼ中央には、国分寺町で産出する輝石角閃石安山岩で造られた石棺が露出して

います。この埋葬施設は、ほぼ東西方向に主軸を有しています。石棺は、棺身の横に天地が逆転した棺蓋が並んでいます。この埋葬施設の発掘調査は実施されていませんが、棺身についてはほぼ水平であることなどから、元々の位置をほぼ保っていると考えられます。一方、棺蓋は、段階を経て天地逆転したことが分かっており、元の位置から人為的に動かされていることは明らかです。この埋葬施設の南西側約三メートルの場所に、主軸がほぼ南北方向の小規模な竪穴式石室が一基あります。複数の角柱状の石材を天井石としており、昭和三十五年から三十六年にかけて、内部から直径九・六センチメートルの変形神獸鏡が一点出土しました。これらの埋葬施設以外では、京大報告に、前方部墳頂のやや後円部に近い位置で、墳丘主軸に沿うような配置の小規模な竪穴式石室一基が存在したとされています。すでに盗掘を受けていたようで、内部から土器片が出土したと報告されていますが、現状でこの埋葬施設を確認することはできません。同墳に伴う遺物は、円筒埴輪と壺形埴輪の双方が採取されていますが、元々据えられた位置で出土したものはないようです。

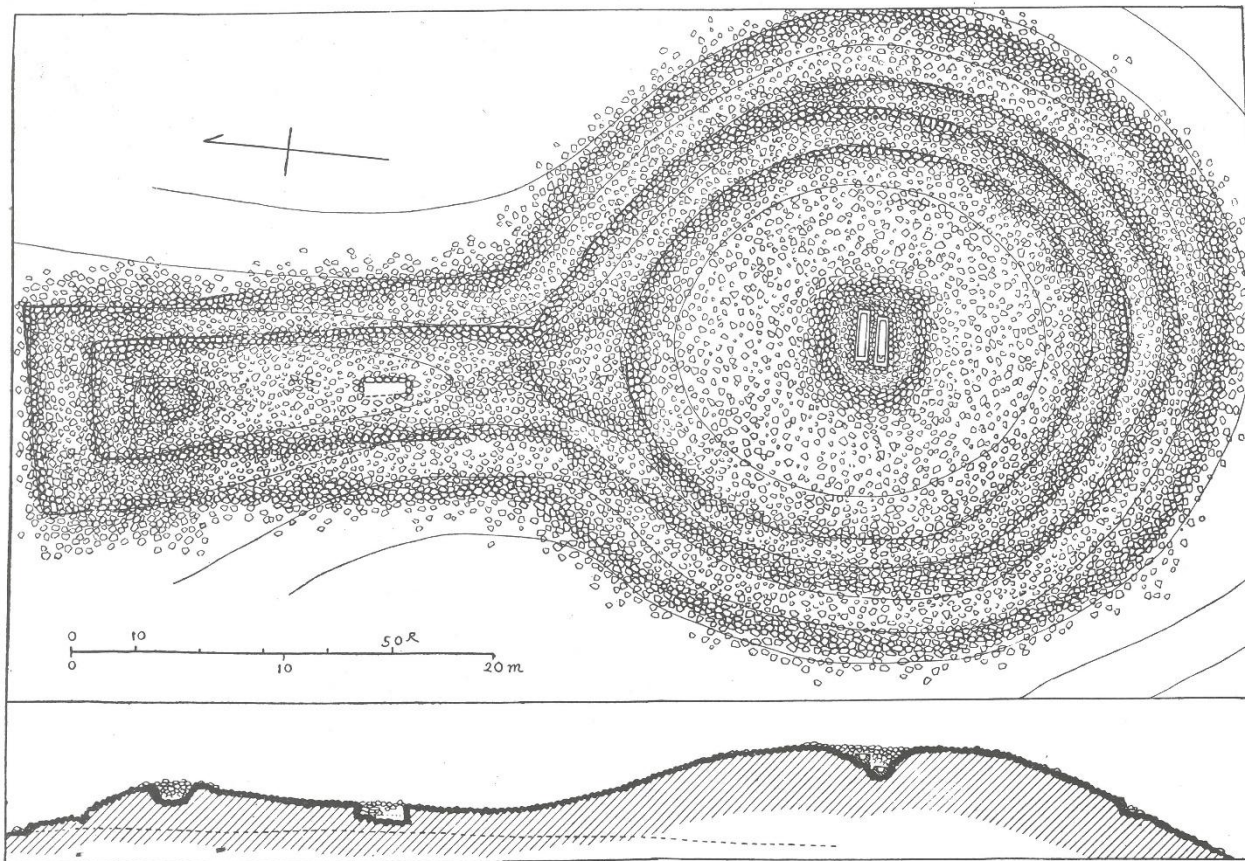


図6 石船塚古墳 実測図（京都帝国大学 1933 から引用）

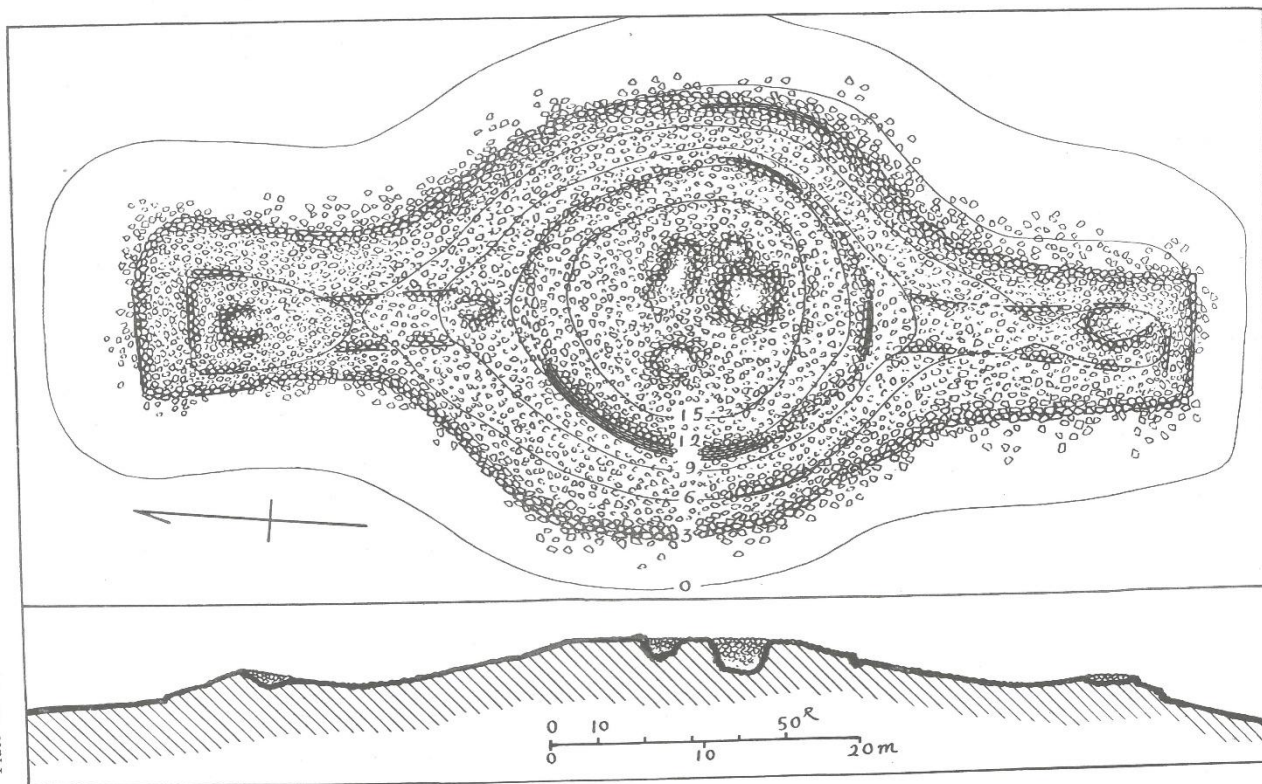


図7 鏡塚古墳 実測図（京都帝国大学 1933 から引用）

6 鏡塚古墳

古墳群中で上位ベスト三に入る規模の双方中円墳で、全長約六十八メートルです(図七)。同墳の南方と北方の尾根上には北大塚古墳などが連なるように築造されています。中円部は立体的で、墳頂部が広く平らな形状となっているのが特徴です。方形部も立体感があり、先端はやや外側に開く形となっています。他の積石塚のように詳しい石積みの技法は分かっていません。京大報告では、調査時に中円部を中心に複数の掘り起こされた痕跡が観察されており、埋葬施設は盗掘を受けている可能性が高いと考えられます。

7 北大塚古墳

全長約三十九・八メートルの前方後円墳です(図八)。同墳の西側には北大塚西古墳、東側には北大塚東古墳が隣接しており、三基の積石塚が連なるように築かれています。同墳は特に前方部の残りが良く、古墳の全体像を捉えやすい古墳と言えます。同墳は、各所に積石段が露出しており、特に前方部は塊石を積み上げた積石段を連続して観察できます。後円部は、一部で高い積石段が残っています。前方部では、北側面・南側面・前端部の各面で、積石段が良く残っています。この積石段の配置から、前方部は先端に向けて外側に開く形状であることが分かります。特に、北側面で東西約十一メー

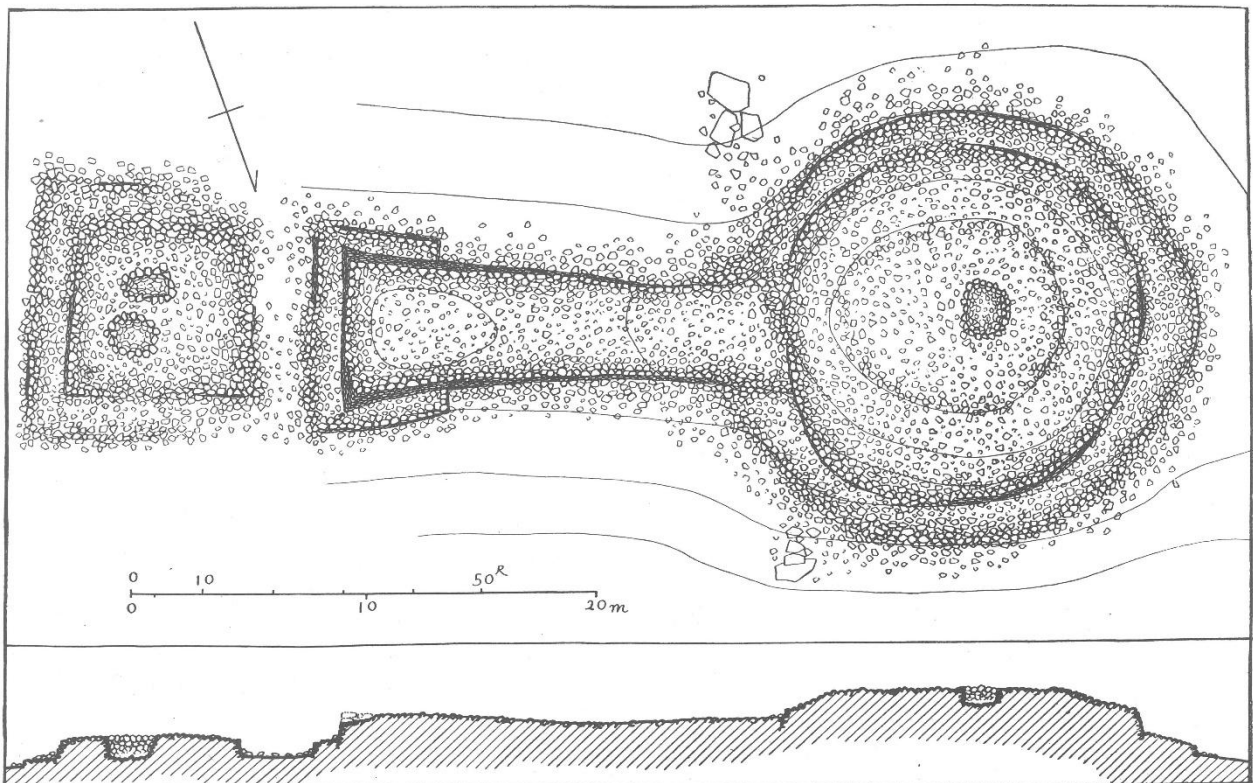


図8 北大塚古墳・北大塚東古墳 実測図(京都帝国大学 1933 から引用)

トルにわたって積石段が残っており、見ごたえがあります。一部では、高さが約一・一メートル残っており、ほぼ垂直な積石段であることが観察できます。同墳の埋葬施設は現状でその痕跡を確認することはできませんが、京大報告では後円部中央に盗掘孔があったとされています。

8 石清尾山古墳群の変遷

古墳時代前期とされる百五十年間で、石清尾山塊には積石塚のみが築かれました。積石塚が築かれた前期に限ると、前方後円墳九基、双方中円墳三基、円墳十七基、方墳一基が確認されており、これとは別に消滅したため形が分からない積石塚が十五基存在したとされています。令和七年現在、十四基の積石塚が国史跡に指定されています（盛土墳の二基を含めると、合計十六基）。前期の積石塚がこれほど密集する古墳群は他になく、その点から前期に築造された積石塚の一大古墳群と言って良いでしょう。古墳の規模では猫塚古墳が古墳群中で最大である

るため、百メートルクラスの古墳が築造された他地域と比べると見劣りするかもしれませんが、他地域にない双方中円墳を築いたこと、前期全般を通じて積石塚を連綿と築いたということ、以上の観点から、石清尾山古墳群は全国的にも稀有な古墳築造の動向を知ることができる一級品の遺跡と言えるのです。

古墳築造の変遷 次に、具体的にどの古墳がどのように築かれていったのかを見ていきます。三つの山塊のうち、

主要な積石塚は稲荷山と峰山に分布しています。前期をさらに四時期（前半古相、前半新相、後半古相、後半新相）に分けて見ていきます。

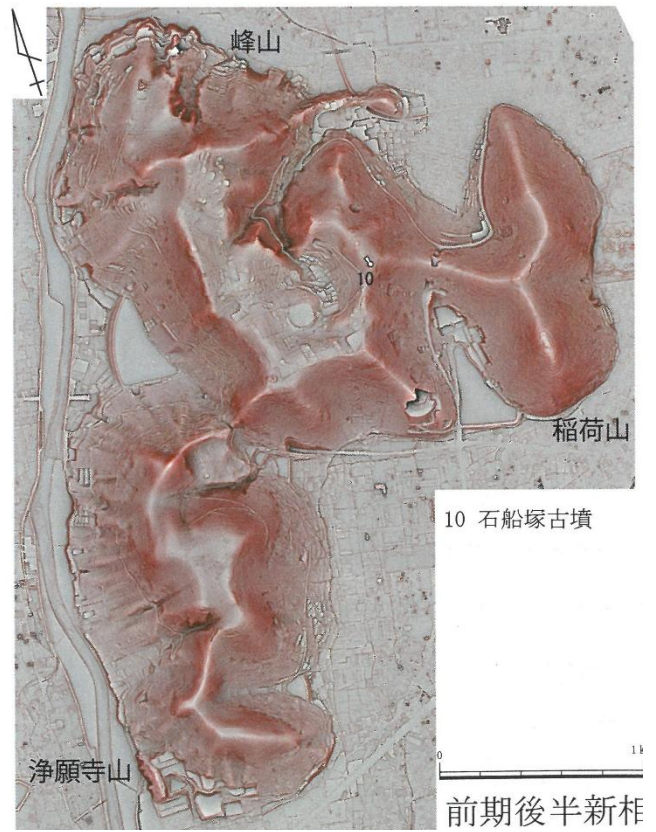
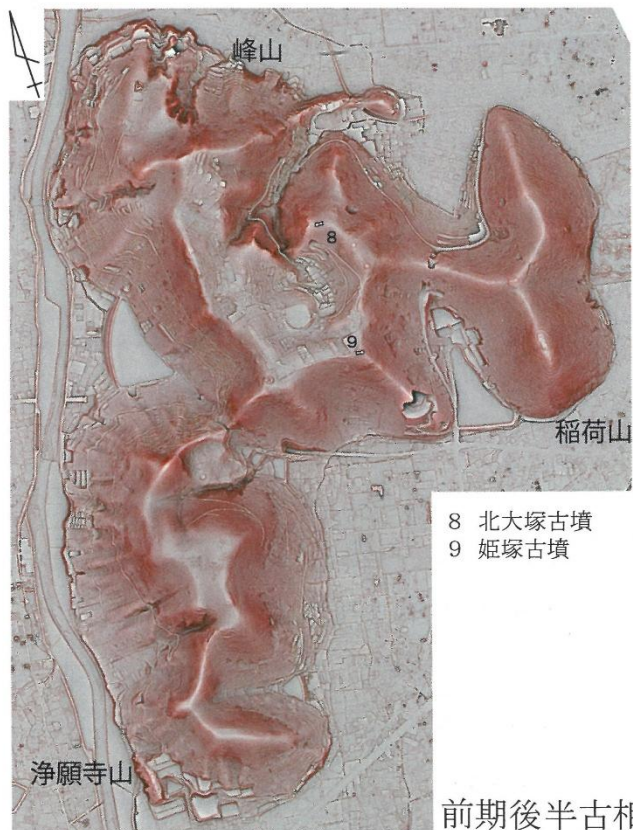
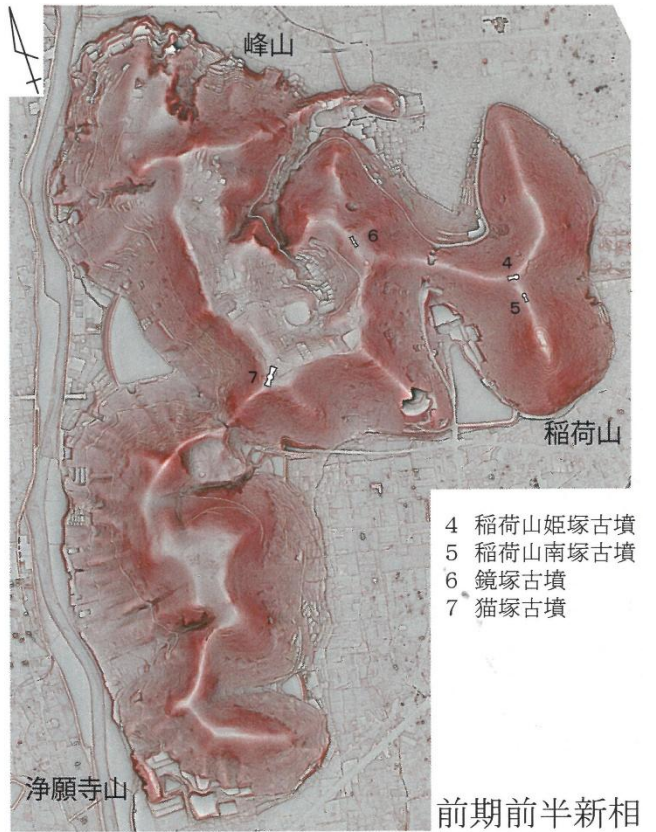
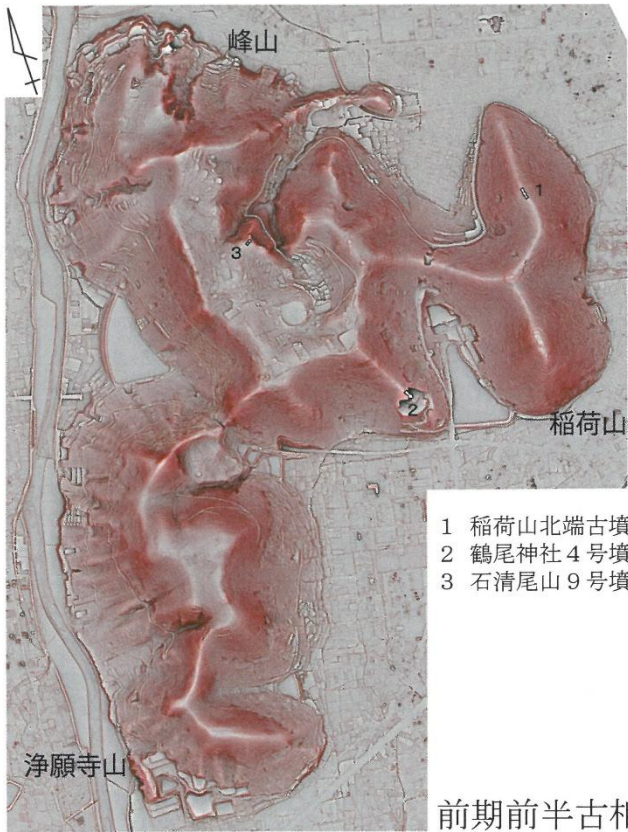


図9 石清尾山古墳群 時期別変遷 (高松市教育委員会 2018 から引用)

前半古相 峰山に前方後円墳の鶴尾神社四号墳、石清尾山九号墳が築かれます。初期の段階から前方後円墳という墳形を受け入れていることが分かります。また、同じ時期に稻荷山で、双方中円墳である稻荷山北端古墳が築かれています。この時期には峰山と稻荷山に、前方後円墳に加えて、双方中円墳が三基の中で最大規模の古墳として築かれます。

前半新相 峰山に猫塚古墳・鏡塚古墳という二基の双方中円墳、稻荷山に稻荷山南塚古墳と稻荷山姫塚古墳という二基の前方後円墳が築造されます。各古墳から見渡すことができる場所がそれぞれ異なるため、複数集団が古墳を築いたことが推測できます。また、この時期は、規模の大きい古墳が築かれていることが特徴です。猫塚古墳は、讃岐地域の同時期の古墳の中でも最大規模であり、古墳を築造した集団が讃岐地域の中で大きな力を持っていた時期と想定できます。

後半古相 峰山に北大塚古墳・姫塚古墳が築かれます。いずれも全長四十メートル前後の前方後円墳であり、前段階よりも古墳の規模は小さくなります。また、古墳群の象徴とも言える双方中円墳は築造されなくなり、古墳が築造される場所も峰山だけになるなど、前段階よりも古墳群の勢力が縮小傾向になることが読み取れます。

後半新相 峰山に前方後円墳の石船塚古墳が一基のみ築かれます。この古墳は、古墳群中で最大の前方後円墳であり、また、石清尾山からおよそ十五キロメートル離れた国分寺町鷲ノ山で産出する石材で造られた刳拔式石棺を被葬者の棺として入手するものの、これを最後に古墳群で大規模な積石塚は築造されなくなってしまいました。

前期を通じて積石塚が連綿と築かれたことで、その趨勢を追うことができるのが石清尾山古墳群ということができます。古墳築造をとおして、讃岐地域の情勢を検討できる点に、本古墳群の歴史的価値があると言えるでしょう。

9 おわりに

石清尾山古墳群について、古墳ごと、さらに古墳群の変遷を見てきましたが、詳しい調査がなされたのはごく一部の古墳であり、現在のところ、分かっていることは限定的と言えます。つまり、史跡には指定されていますが、その歴史的価値はこれからさらに明らかになっていく余地があると言えるのです。そのため、継続した調査・研究が求められます。令和五年度に本古墳群の保存活用計画が策定されましたが、形を保つことが難しいこの積石塚を適切に保存し、後世に伝えていくことが私たちの重要な課題と言えます。市民の方々に、古墳群の歴史的価値を知っていただき、皆でともに後世に残していけるように努めていきたいと考えます。

＊主な参考文献

- 大久保徹也二〇一八「第三節 石清尾山古墳群の発見・探求・保存措置」『石清尾山古墳群（稻荷山地区）調査報告書』高松市教育委員会
- 香川県史蹟名勝天然紀念物調査会一九二八「石清尾山大古墳群」『史蹟名勝天然紀念物報告』第二号
- 京都帝国大学一九三三『讃岐高松石清尾山石塚の研究』
- 高松市二〇二四『史跡石清尾山古墳群保存活用計画』
- 高松市教育委員会二〇一八『石清尾山古墳群（稻荷山地区）調査報告書』